中国の今と日中関係の行く末

（３年間の北京駐在を振り返って）

RIETI コンサルティングフェロー
小野寺　修

経済産業省大臣官房
政策統括調整官（国際資源エネルギー担当）

小野寺　修
おのでら　おさむ



- 1991年、通商産業省（現 経済産業省）入省
- 東京大学教養学部卒、米国スタンフォード大学ビジネススクール卒
- OECD貿易局上席貿易政策分析官、NEDOシリコンバレー事務所長、経産省通商機構部参事官、内閣府知的財産戦略推進事務局参事官、通商交渉官、総務省国際戦略局次長、ジェトロ北京事務所長・北東アジア総代表等を経て、2026年7月から現職

本日の講演内容は講演者個人の見解に基づくものであり、現在および過去の所属機関・組織の見解を代表するものではありません。後日RIETIから公表される講演の概要のほか、本資料及び発言の対外引用はお控えいただくようお願いいたします。

本日の講演内容

I.　３年を振り返り

II.　中国の現状について

1. 中国の経済
2. 国際関係
3. 日本企業にとっての中国経済
4. 中国にとっての外資（日本企業）

III.　気づき・感じたこと

1. 国家「安全」への傾斜
2. サプライチェーン強靭化
3. 新質生産力と自立自強の推進
4. 2025年度中国科学十大進展
5. 中国は上意下達のエンジニア国家
6. China Speedでの展開（実証➡商業化）
7. 中国EU商会・米国商会の報告書

IV.　まとめ・伝えたいこと

1　３年を振り返り

2023年　　（日中平和友好条約４５年）

・2022年のゼロコロナ終了　⇒　入国自由化　⇒　経済回復への期待

・８月のALPS処理水放出　⇒　日本産水産物輸入禁止　**改善しそうで まだ一歩**

・７月日投促ミッション、8月日中経済協力会議（長春）

・10月日中平和友好条約レセプション（東京、北京）　ビザ問題懸案化

2024年　　米国大統領選（2024年11月）前夜

・4月　イエレン財務長官訪中（過剰供給の顕在化　米中緊張関係）

・7月　三中全会　（基本的な方向性の再確認）

・8月　日中友好議連訪中　米国大統領選を控え中国の全方位微笑み外交　米政権交代を控え

・10月　岸田総理　⇒　石破総理　**日本政権交代を機に改善の流れへ**

・10・11月　両用品規制公布・リスト公表　GaGe対米輸出禁止

・11/15　石破首相・習近平主席首脳会談（戦略的互恵関係の確認）

・11/22　対日ビザ免除再開公表

2　３年を振り返り

2025年　　（**終戦80周年**・中国にとっては抗日・反ファシスト戦争勝利80周年）

・1月トランプ大統領就任　⇒　米中通商紛争（打ち合い）　⇒　小康状態に

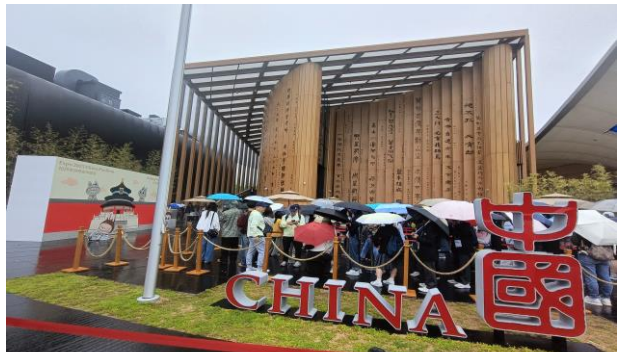
・1月与党訪中団、2月三経済団体訪中団、3月王毅外交部長訪日・ハイレベル経済対話

・4/13-10/13　関西万博　7/11China Dayを含め40超の各州自治区市のイベント

11月までは「春」



抗日記念館の日中友好コーナー



万博中国パビリオン



日中友好回廊

中国館活動計画表
中国パビリオンのイベントスケジュール
Event Plan of China Pavilion

日期 Date/日付	活动内容	イベント	Event
4.28-30	四川周	四川ウィーク	Sichuan week
5.8-10	北京周	北京ウィーク	Beijing week
5.12-14	深圳周	深センウィーク	Shenzhen week
5.15-17	天津周	天津ウィーク	Tianjin week
5.20-22	江苏周	江蘇ウィーク	Jiangsu week
5.23-25	海南周	海南ウィーク	Hainan week
5.26-28	河北周	河北ウィーク	Hebei week
5.30-6.1	福建周	福建ウィーク	Fujian week
6.3	安徽日	安徽デー	Anhui day
6.5-7	贵州周	貴州ウィーク	Guizhou week
6.9	吉林日	吉林デー	Jilin day
6.11-13	广西周	広西ウィーク	Guangxi week
6.16	甘肃日	甘粛デー	Gansu day
6.18-20	湖北周	湖北ウィーク	Hubei week
6.27-29	广东周	広東ウィーク	Guangdong week
7.2	江西日	江西デー	Jiangxi day
7.8-7.10	陕西周	陝西ウィーク	Shaanxi week
7.11	中国馆日	中国ナショナルデー	China National Day
7.12-14	浙江周	浙江ウィーク	Zhejiang week
7.15-17	新疆周	新疆ウィーク	Xinjiang week
7.25	重庆日	重慶デー	Chongqing day
7.29-31	山东周	山東ウィーク	Shandong week
8.6-8	湖南周	湖南ウィーク	Hunan week
8.17	国航主题日	AIR CHINA DAY	AIR CHINA DAY
8.18	宁夏日	寧夏デー	Ningxia day
8.19	黑龙江日	黒龍江デー	Heilongjiang day
8.20	例外放玩主题日	EXCEPTION(例外の日	Exception day
8.21-23	河南周	河南ウィーク	Henan week
8.24-26	辽宁周	遼寧ウィーク	Liaoning week
8.30	中国优秀出海数字IP音乐会	中国発、世界で活躍するデジタルIPコンサート	Chinese Outstanding Overseas Digital IP Concert
9.9	青海日	青海デー	Qinghai day
9.11	企业可持续发展和ESG	中国企業国際化ESG優良実践例交流会	est Practices in ESG for Internationalizing Chinese Enterprise
9.13-15	中国精品图书展	中国精品図書展	Chinese Excellent Book Exhibition
9.16	五粮液主题日	五粮液デー	Wuliangye day
9.23	云南日	雲南デー	Yunnan day
9.25	中医药文化主题日	中医薬文化テーマデーです	Traditional Chinese Medical Culture Day
9.26	中国酷 世界香 2025年大阪世博会中国馆吉井贡酒年份原浆企业日	2025年大阪・関西万博中国館「吉井貢酒年份原酿」企業デー	Gujinggongjiu'Nianfen Yuanjiang Enterprise Day at the China Pavilion, Expo 2025 Osaka
9.27-29	山西周	山西ウィーク	Shanxi week
10.2-4	澳门周	マカオウィーク	Macau week
10.9	内蒙古日	内モンゴルウィーク	Inner Mongolia day
10.11	上海日	上海デー	Shanghai day

出所　JETRO



抗日記念館改装
系譜淡々　南京虐殺731なども



映画
「南京写真館」





9/3　軍事パレード　露、北朝鮮などの首脳訪中

3　３年を振り返り

2025年　（続き）

－10/31、高市総理・習近平主席の日中首脳会談（戦略的互恵関係の確認）。

⇒　11月より　中国政府による訪日観光客自粛働きかけ、　**秋から急転直下**

日本映画・コンサートの延期・中止、政府関係者の訪日中止・延期、

政府関係者（国有企業）のアポキャンセル、日中イベントの中止延期など

2026年　（米中不安定な均衡の中、冷えた日中関係）　**改善の模索？長期化？**

ー年明け予定の三経済団体訪中団は延期。1/6に商務部が日本向けの両用品目の輸出管理強化を発表。

2/24に日本企業をコントロールリスト、注視リストに各20社（6/29に同様措置）

ー流動的国際情勢が動く中（ベネズエラ、イラン）、中国は外交活発化。

ー年明けより韓国、カナダ、英国、独、豪の首脳、5月には米トランプ大統領が訪中。

（伊（一昨年）、仏（昨年末）と合わせるとコロナ明けに日本以外のG7は訪中済。）

⇒　米中は小康。日本以外と積極外交。日中政府間交流激減。中国政府と日系企業の交流も大きく減少。

6月サプライチェーン博への関経連・大商等参加、橋本岳日本国際貿易促進協会代表等訪中

➡　建国77周年祝賀会（9/25）、岩屋国貿促会長訪中（王毅外交部長、何立峰副首相との会談）。

Ⅱ 1　中国の経済

◇年経済成長率は2024、25と２年連続5.0%　2026年の目標は4.5-5.0%　⇒**低成長経済へ**

BUT　**日本４倍のGDP×3%**　＝　毎年タイ一国の経済が誕生

中国の人口は日本の11倍強。　中堅層も拡大 - **ニッチも大きい**

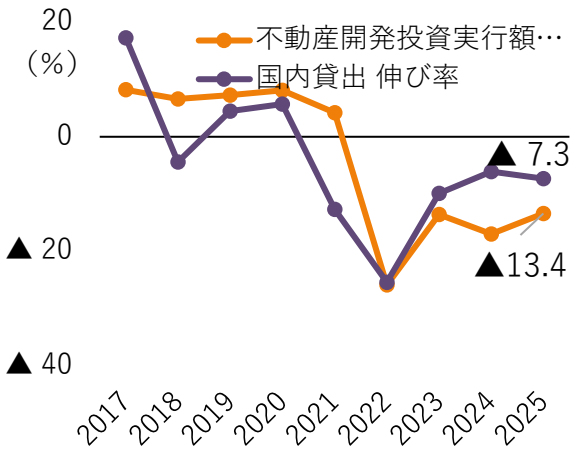
広東省、江蘇省＞韓国　　山東省≒インドネシア

◇**不動産・インフラ低迷。　サプライサイド政策（新質生産力）重視**　⇒**まだら模様**

◇**消費低迷、貯蓄は増加**　デマンドサイド政策（以旧換新）　2024-2025前半は一定の効果

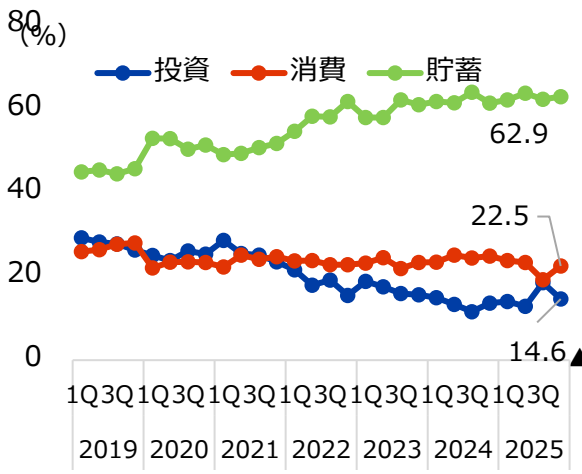
◇**競争激化**（「**内巻**」）　⇒**価格低下・デフレ**「平替」「**反向消費**」　⇒**輸出依存・中資「出海」**

不動産開発投資実行額（前年比）



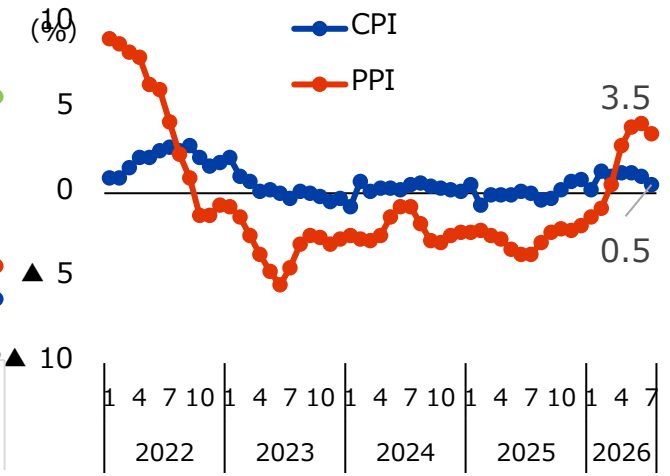
（出所）国家統計局よりジェトロ作成

都市部預金者が今後より増やしたい項目



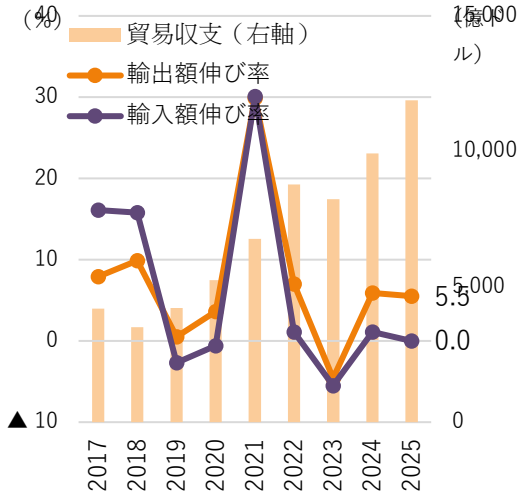
（出所）中国人民銀行よりジェトロ作成

消費者物価指数（CPI）・生産者物価指数（PPI）（月別、前年同月比）



（出所）国家統計局よりジェトロ作成

貿易額（前年比）



（出所）中国税関よりジェトロ作成

II 1　第14次5か年規画の振り返り・第15次５か年規格（2026-2030）発表

- **第14次5カ年規画期（2021-2025年）**は**昨年10月**の20期四中全会で「中国の発展が**大きな成果**を収めた時期」と評価。
- **第15次5カ年規画（2026-2030）**は、**本年3月全人代で採択。➡**　諸々の5か年規画の設定・公表

第14次5カ年規画期（2021－2025年）の成果進捗	
経済	• 過去4年間（2021－2024年）のGDPが約110兆元　から約130兆元（約2,200兆円から約2,600兆円）に増加、平均経済成長率5.5% • **製造業**付加価値総額が毎年30兆元（約600兆円）超 **15年連続世界首位** • （国内）経済成長に対する内需の平均寄与率86.8%
民生	• **世界最大規模の教育、社会保障、医療・衛生体制**確立 • 都市における毎年の新規就業者約1,200万人
環境	• 2024年のGDP当たりエネルギー消費量が2020年と比較して11.6%低下 • 新エネルギー車の保有台数は約3,140万台、2020年と比較して約5倍に増加
定性評価	四中全会における第14次5カ年規画期に関するコメント • 中国の発展が重大な成果を収めた • 経済の動きが安定を保ちつつ上向きに推移し、質の高い発展が着実に進んだ • **科学技術イノベーション**が多くの成果を上げ、**新質生産力**（※）が確実に発展した ※イノベーションを基盤とした先進的な生産力の形態

第15次5カ年規画期（2026－2030年）の概要・展望	
同期間の位置付け	• **2035年の「社会主義現代化」**実現に向けた重要な期間 • 国内および国際的に複雑な変化が起き、中国の発展環境が急激に変化する期間
目標	（1）質の高い発展において顕著な成果を得る （2）**科学技術の自立・自強**を著しく向上させる （3）改革の全面的深化において新たな突破口を開く （4）社会文明を著しく向上させる （5）**人民生活の質を継続的に向上**させる （6）美しい中国の建設で新たな進展を遂げる （7）**国家安全保障**のさらなる強化
具体的取組	• **消費（内需）の拡大** • **科学技術分野**に対する投資、研究開発の**強化** • **民生分野（所得、教育、社会保障、医療）の拡充** • **対外開放の拡大**　など

（出所）公開情報、第15次5カ年規画建議を基にジェトロ作成

Ⅱ2　国際関係（米中関係の大きな変化　より対等な関係に）

- **２０２５年１月トランプ大統領就任。米国ファーストを掲げ、関税をてこに通商交渉開始。**
- 中国は、２０２４年から「**安定的・建設的な関係**」を模索しつつも、一方的措置には**断固として対応する方針**を突き通し、対抗。　➡ 米中意地の張り合い　➡ 合意・小康状態
- 中国の対米政策は「**慎重な守り**」➡「**守りと攻め**」。背景には「**自信**」と「**力**」。**より対等な関係に**

  - 2025年1月20日大統領就任、米国ファースト提示。
  - 2月、中国からの全輸入品に対して10％の関税を賦課（3月3日、20％に引き上げ）。
    →タングステン等5種レアメタル輸出管理開始
  - 2月、**全世界に相互関税公表**（中国34％）。　4月8日、9日には84％、125％に引き上げ。
    →**中国も**関税34％、84％、125％関税で対抗。
  - 4月2日、5月2日からデミニミスルール停止。
    →中国、サマリウム、ジスプロシウム等7種の中重希土類**レアアース関連品輸出管理開始**
  - 5月スイス(関税の大半撤廃)、6月ロンドン（非関税障壁）、9月マドリード、10月KLを経て、
  - **10月にプサンで首脳合意。**（関税の調整、**輸出管理措置の強化を1年間暫定停止**、
    米国は海事、物流、造船業に対する301条調査を、中国も対抗措置の実施を1年間暫定停止
  - **2026年5月トランプ大統領訪中**（多数CEO同行）。**関係安定化や９月の習主席訪米で一致、対話継続。**「貿易委員会」「投資委員会」の設立、航空機、大豆の契約など
  - **習近平主席の米国公式訪問（9/24）　合意の２か月延長。　　米中間選挙（11/3）あるが**
  - **APEC首脳**（11月＠深圳）、**Ｇ２０首脳**（12月＠マイアミ）あり、**小康状態は続く見込み。**

Ⅱ2　国際関係（中国と他国　―全方位外交・米国の「空白」を埋める中国）

米国が米国ファーストを掲げ、関税をてこに交渉、国際協力予算を削減する中、中国は全方位外交

―**EU**の対中貿易赤字が拡大する中、**中国と欧州委員会の関係は緊張**状態に。昨年7月中EUサミットは開催（相互の立場を確認）するも、**中国の自信**（立場堅持）⇒個別の**二国関係中心の「分割統治」**

―**カナダ、豪州、英国**とは懸案はあるものの、首脳外交をきっかけとしてそれぞれ改善の方向。

―グローバルサウスを中心に、**中国ASEAN・GCC**首脳会議、**中国・中央アジアサミット**、**BRICS**サミット、**上海協力機構**サミット、**戦勝記念パレード**などを活用し、**積極外交**を展開。

2025～2026年の中国の主要な外交の動き

- **2025年**には**中国ASEAN・GCC（湾岸協力会議）**（5月＠マレーシア）、**中国・中央アジア（6月＠カザフスタン）、中EU（7月＠北京）、BRICS（7月、ブラジル）、上海協力機構（8月＠天津）、G20（12月＠南ア）などの首脳会合に参加・開催。**
- **9月3日、戦勝記念パレード**にはロシア、北朝鮮、インド、インドネシア、マレーシア、ベトナムなど**26カ国の首脳**等が参加。
- 昨年10月、**中ASEAN FTA3.0**が正式署名。
- 本年5月外交関係のある**アフリカ国関税ゼロ**実施へ
- **2026年**も**上海協力機構**（8月＠キルギスタン）、**BRICS**（9月＠インド）の首脳会合に参加、**APEC（11月、深圳）を主催**、G20（12月、米国）参加予定。

中国の四大グローバル・イニシアティブ

中国は**4つのイニシアティブ**を発出、継続的に働きかけ。

（１）**Global Development Initiative**（2021）

①開発第一、②人間中心、③全てへの利益、④イノベーションによる発展、⑤人間と自然の共生等

（２）**Global Security Initiative**（2022）

①共通・包括・協力・持続的安全保障、②全ての国の主権・領土の保全、③国連憲章の順守、④全ての正当な安全保障懸念の考慮、⑤対話による平和的紛争解決等

（３）**Global Civilization Initiative**（2023）

①文明多様性の尊重、②人類共通の価値追求、③文明の継続と発展の重要性、④国際的交流・協力の拡大

（４）**Global Governance Initiative**(2025)

①主権の平等、②国際法の順守、③マルチ主義の堅持、④人間中心の堅持、⑤結果主義

Ⅱ2　中国の博覧会（上海輸入博、中アセアン博覧会など）

- 中国においては博覧会が総合、地域、産業別に多数開催。

―３大博覧会（広州交易会、サービス交易会、上海輸入博）

―地域博覧会（中アセアン博（南寧）、西部博（成都）、中国東北アジア博（長春）、
中国南アジア博（昆明）、中アラブ博（銀川）、シルクロード博（西安）等）

―産業別博覧会（サプライチェーン博（CCPIT北京）、中国国際投資貿易商談会（厦門）、
世界インターネット大会（烏鎮）、世界ロボット大会（北京）、世界人工知能大会（上海）等


李強首相挨拶


開幕式　会場



2025年は７言語の同時翻訳

（出所）筆者撮影

・各博覧会は　一般的に**①開幕式、②展示会、③国際会議・サイドイベント**で構成。

開幕式：領導、貴賓挨拶（パートナー国閣僚、企業幹部等）で構成。

（会議前に少人数で意見交換実施、展示会の視察）

展示会：国家、中国各地方、企業、大学などが出展。

⇒**①国際機関要人招聘、②中国中心の国際プラットフォーム（※）**創設

（※）世界AI協力機構、アジアインフラ投資銀行（AIIB）、世界インタネット大会（WIC）、世界サービス貿易連盟（GATIS）など

・**政府リーダー、高官、地域政府関係者の勉強、ビジネス創出、産官学交流**とともに**外交の場。**

（例1）**中国アセアン博2023（南寧）**（第20回）⇒　李強首相、越馬東老の首相、尼泰の副首脳、ASEAN事務総長

（例2）**世界人工知能大会2026（上海）**習近平主席、カザフ・カンボジア・タイ首脳、国連事務総長　世界AI協力機構設立

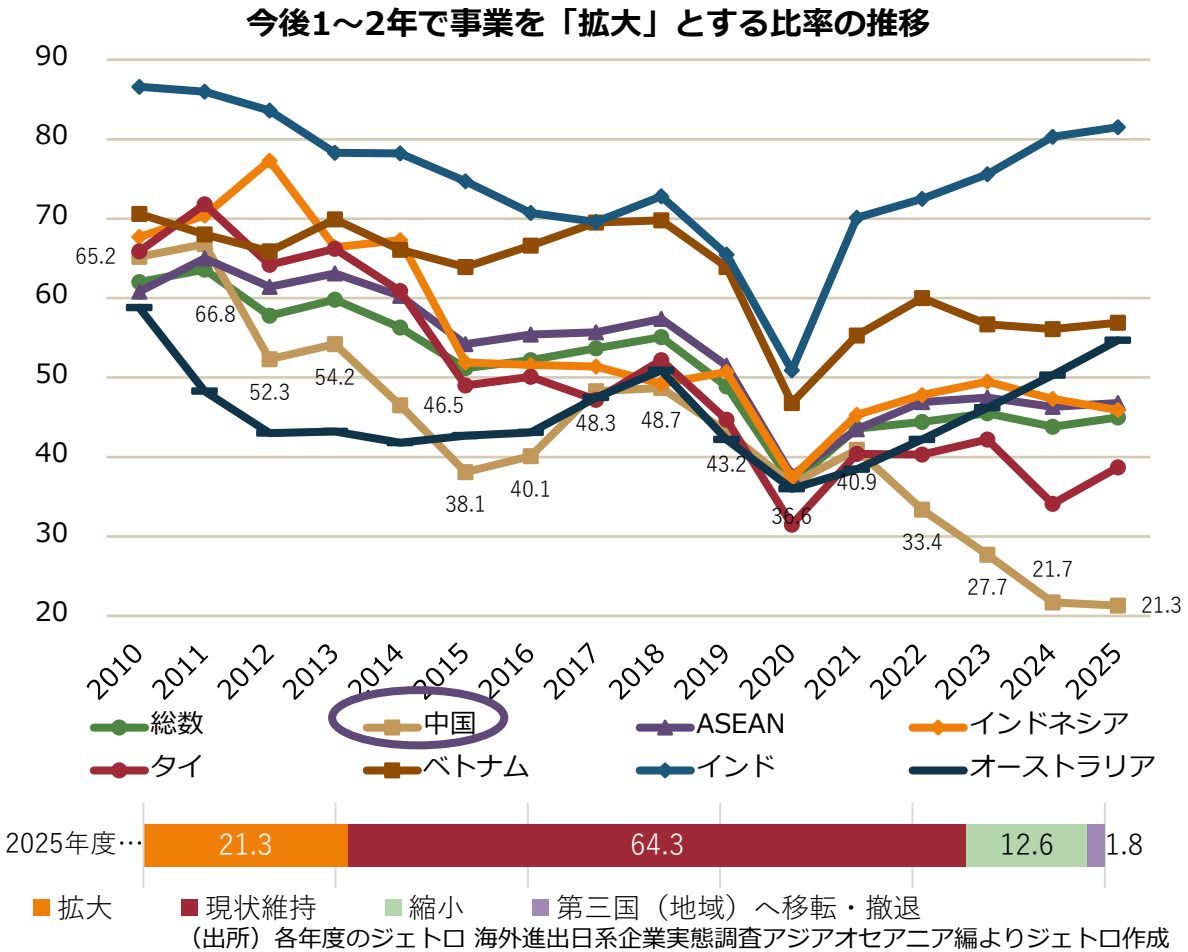
（例3）**サプライチェーン博** Apple のTim Cook、NVIDIA Jensen Huangが出席するなど欧米ビジネスリーダーは積極的に中国政府に働きかけ

II 3 日本企業にとっての中国経済

外務省の「海外進出日系企業拠点数調査」によると中国の日系企業の拠点数は約３万2300拠点

拡大意欲は低下傾向も依然拡大・現状維持合わせると85.6% 、「縮小」「撤退」は限定的。

大多数の日系企業は競争激化する中国市場で生き残りを模索（In China for China、駐在員数減）



（出所）各年度のジェトロ 海外進出日系企業実態調査アジアオセアニア編よりジェトロ作成

- **日本コンテンツは根強い人気**
- **国民の対日感情は（一般的に）良好**



人気すし店は３時間待ち



本屋には村上春樹
東野圭吾、夏目漱石。



2025年　日本映画
孤独のグルメ
機動戦士ガンダムジークアクス
名探偵コナン　迷宮の十字路
千と千尋の神隠し
陰陽師ゼロ
ボッチザ・ロック
鬼滅の刃　無限城編第１章
ーーーー以下は延期・以降はなし
クレヨンしんちゃん・働く細胞



（出所）筆者撮影

II 3　日本企業にとっての中国経済　（最近の日系企業の関心事項－安心安全）

- 2024年**蘇州**の刺傷事件、**深圳の**児童刺殺事件は**現地日本人社会に大影響**。登下校時の**警備強化。中国政府は独立した偶発事件と説明**。昨年死刑執行。安全確保、原因究明・再発防止を継続申入れ。
- 2024年**11月から短期ビザ免除措置を供与（他国とともに2026年末まで）。**
- **反スパイ法**は2023年4月に改正、7月に施行。反スパイ法改正後は同法事由の日本人の拘束事案は不承知（2023年3月の事案については2025年7月に３年半の実刑判決）。
- 判決公判は非公開のため、具体的にどのような行為が違法とされたか不透明。**報道によると「報酬と引き換えに情報機関に中国の国内情報を提供していたと認定」している**が、実際の事実関係は不明。
- 本年に入り、２名の邦人拘束（その後逮捕）事案が発生（「国家輸出入禁止貨物密輸罪」の容疑）。
- 一般論として**治安状況は良好であり、通常のビジネスを行う際に懸念はない。**
- **セキュリティ環境、中国法の執行状況には注意が必要。**
  - **産業・サプライチェーン安全規定（本年3月末公布・4月施行）**
  - **商務部公告24号（6/22公布）**　安全調査、資料提出要求、現地調査等
  - **同26号（6/24公布）**通報制度の整備（迂回輸出、技術輸出等を含む）
  - **輸出管理リスト・監視リストへの各20社追加（6/29）**
- **日中の通信・生活環境は違うことを念頭に、**
- **日中関係のセンシティビティを理解**（記念日は特に注意）し、**活動**



6月、北京CITICビルに小型飛行機衝突
➡地域は封鎖・情報は制限　➡　公表

（出所）筆者撮影

Ⅱ3　日本企業にとっての中国経済　中国日本商会の白書主要指摘事項

３つの期待
1．日中国家間の**政治・外交的**な問題が**企業活動や文化活動に波及しない**こと
2．国際情勢や政治情勢に左右されず、**政府間の対話**の開催
3．**中国政府機関と中国日本商会の対話**の持続的実施

３つの重点

1．**安定的な日中関係に向けた環境作り**
政治・外交を企業活動や文化活動に波及させないこと
日系企業への公平性・邦人安全性確保、**ビザ**免除政策常態化、**両国往来円滑化**



2．**予見性・透明性、公平性が確保されたビジネス環境整備**
貿易管理法規制における不透明性排除・適切な運用
税関規則・税務規則の公平・適切な運用
日本産水産物・食品の輸入規制の緩和・撤廃
政府調達、補助金政策、標準化政策などにおける公平性な競争の確保　など

3．**持続的成長に向けた経済活性化**
外商投資参入特別管理措置のさらなる緩和、**規制緩和**に向けた体制整備
医療関係の海外MAH制度、家電・低燃費車などへの優遇継続・適切運用、低温物流規制緩和
介護用品・高齢者用福祉車両などへの規制緩和、長期介護保険制度の全国導入

中国日本商会の発表資料に基づき筆者作成（https://www.cjcci.org/detail/576/576/5290.html）

II 4　中国にとっての外資（日本企業）

- **中国にとっての外資企業　⇒　重要な経済の担い手**

  外資企業数53万社超、中国への対内FDIのストックは約４兆ドル。

- ２０２５年の対内直接投資は約800億ドル（ピーク2021年3.4兆ドルの４分の１。2013年～2022年は年2000億ドル前後）

- 中国の外国投資企業は**雇用の約７％、税収の約７分の一、輸出入の約３分の一、電気機械及びハイテク製品の輸出の約半分**を占めている（商務部凌激副部長）。

⇒　**外資誘致は重要政策　⇒改革開放の堅持**　（BUT**選択的な優遇政策**）

―中国国際投資貿易商談会（厦門）　毎年開催

―地方ベース（省、市、区）での投資説明会

―CCPITの地方イベント（2025年広東、黒竜江、山西、チベット、福健）

⇒外国商会・外資企業等が参加　地元政府との意見交換・産業視察・投資誘致の機会





（出所）筆者撮影



（出所）CCPIT　HPより

III1　国家「安全」への傾斜

●2014年に「総体的国家安全保障観」が提唱され、翌年「国家安全法」として立法化。

●2014年時点では政治、国土、軍事、経済、文化、社会、科学技術、情報、生態系、資源、

原子力の１１項目が挙げられていたが、その後、金融、インターネット、食料、海外権益、宇宙、深海、極地、生物、人工知能、デジタルなどが追加され、2025年「新時代の中国の国家安全保障」と題した白書を公表。

●エネルギーについては、エネルギー法等に基づき
- ①再生可能エネルギー（設備55%;量28%）や原子力（2%;5%）を拡大。
- ②石炭火力（自給可能な）については継続投資（35%;67%弱）
- ③天然ガス（8%;内数）は生産拡大・輸入多角化（露や中央アジアパイプライン）
- ④グリーン貿易拡大（自国のグリーン産業（EV、PV、風力）の優位維持・拡大）

●重要鉱物については、鉱産資源法、レアアース管理弁法・条例、両用品目輸出管理条例などに基づき、
- ①上流からの管理強化　（輸入鉱含まれる、トレーサビリティ強化）
- ②輸出管理の強化
  - ―レアアース及び使用製品への対象拡大
  - ―みなし輸出、再輸出規制の導入・明確化
  - ―採掘、精錬、分離等技術及びその媒体の規制強化
- ③海外における重要鉱物産地との関係強化、投資

●サプライチェーン強靭化では、「自立自強」、「輸出入多角化」、「グリーン貿易拡大」、「出海（海外展開）」、「中央班列」など

出所：NEDO, JOGMECの資料を基に作成

Ⅲ2　サプライチェーン強靭化

●インフラの接続性改善

―海外との鉄道接続改善（2025年末時点で165,000km（うち50,000㎞は高速鉄道）
中央班列、中ラオス鉄道、新国際陸海貿易回廊（内陸鉄道（成都）- 水路（重慶）- 国際港（欽州）
は運航拡大。中国・キルギス・ウズベキ鉄道、中越鉄道は2025年12月に着工。

―海路インフラ改善　世界Top10のコンテナ港のうち6が中国（上海、寧波、深圳、青島、広州）
　海運会社　COSCO（10.6%）、SITC（0.6%）、Zhonggu（0.4%）など。計18.3兆tの海上貨物輸送

―空運能力改善　2025年には1640億tKm（前年比10.5%）、7.7億人（前年比5.5%）の貨物・旅客輸送。
中国のForwarderは世界シェア約20%、Sinotrans５位、AWONT9位

●世界をつなげる情報インフラ構築

―2025年11月時点で483万の５G基地局（前年比プラス58万）、５G使用者11.9億人。
固定ブローバンド利用者6.97億人（うち2.39億人は1000Mbps以上。全人口の34.3%）

―計算インフラ構築　米国に次ぐ280EFLOPS、900万個のコンピュータラックの計算能力

―2024年には72百万㎞の光ファイバ網（うち8.5百万は新規）を構築。2023年末までに
24か所の国際海底ケーブル計画の建築に参画、17か所に投資、30以上か所を購入・リース。

●金融インフラシステムの改善　（Cross Border Interbank Payment System（CIPS）に2025年3月現在
170の直接参加者、1497の間接参加者。2025年に844万取引（前年比＋2.66%）、180兆人民元）

CCPIT　2025　Global Supply Chain Promotion Report及び同2026に基づき作成

Ⅲ3　新質生産力と自立自強の推進

●中国の科学技術政策　「海外からの技術導入」→「自主イノベーション」→「自立自強」

●15次５か年計画（2026-2030）で７つの目標（①質の高い発展、②科学技術の自立自強等）、12の重点課題（①現代的産業体系の構築、②科学技術イノベーション、③強力な国内市場の形成、④改革の深化・高水準社会主義市場経済体制の構築、⑤対外開放の拡大等）を提示。

●**新質生産力**　―　「科学技術革新」、「産業の高度化」、「生産要素の質と配置の改善」を

①科学技術革新　基礎研究への注力、基盤技術革新、コア技術のブレークスルー、独創的、破壊的イノベーション（次世代の情報技術、バイオテクノロジー、新エネルギー、新素材、ハイエンド装置、新エネ、自動車、環境保護、航空宇宙、海洋装置）

②産業の高度化　サプライチェーン強化（含むデジタル）、旧来産業改造、新興産業育成、デジタル経済の推進（インタネット＋　→　AI＋）

③生産要素の質と配置の改善　生産要素の市場化改革、教育・科技・人材改革、データ活用

関志雄：「「新質生産力」の発展を目指す中国―カギとなる先端技術と産業の融合」などを基に作成



伊利（乳業）の工場：規模の経済



iFLYTECH



41億端末：翻訳・教育・医療に



医療補助PF：
当日補助28万/修正850件

（出所）筆者撮影

Ⅲ4　2025年度　中国科学十大進展

２０２６年３月の**中関村フォーラム（3/27-31@北京中関村）**で国家自然科学基金委員会は
中国科学十大進展として下記を選定・発表。（先端科学、技術、事業化・ベンチャーをつなぐ意図？）



（出所）筆者撮影

01 嫦娥６号試料で月の裏の進化史を初めて解明	**06** 炎症性老化の分子メカニズム解明
02 柔軟なダイヤ薄膜の量産化製造法の開発	**07** 深海・超深海における生命群集を新発見
03 EAST及びHL-3核融合装置で１億度・千秒運転	**08** 2次元半導体とシリコンを融合したフラッシュメモリ技術の実現
04 神経セラミド受容体（代謝疾患の新治療標的）発見	**09** トリウム溶融塩炉の燃料サイクル検証
05 遺伝子編集ブタ肝臓の人体移植成功	**10** 高性能フレキシブル太陽電池のブレイクスルー（変換効率33.6%）

III5　中国は上意下達のエンジニア国家



北極星を見て進めば迷わない
共産党に従えば幸福になる＠チベット

●習近平主席の下で、政府中心➡党中心の意思決定に。
●CCTVでも日常的に主席の動向を報道。
●１５次５か年計画　➡　複数の分野別１５次５か年計画
　　地方ごとの実行計画
●中国は「エンジニア国家」（vs 弁護士国家の米国）
　　（参考　Dan Wang氏の「Breakneck」）
➡「課題」には「解決策」がある。（含む　社会課題）
　一人っ子政策、ゼロコロナなど
　多少の社会コストはCollateral Damage？



（出所）CCTV



リーダーが方針を発表
（産業、地方に）
➡メモを懸命に取って
　さらに下に伝えていく



10年末　8358km
19年末　2.9万km
23年末　4.5万km
Cf　日本3300km



そこかしこで急速に進む
高速鉄道建設

（出所）筆者撮影





無人化進むコンテナ港（上海、欽州、青島。。。）

III6 China Speedでの展開（実証➡商業化）

●まずは地方で進めて、全国に展開。
　多少の問題があっても止めずに継続（失敗の許容）。
　（例：シェアサイクル、自動運転、低空経済など）
●地方ごとの産業育成競争（多様な生態系）

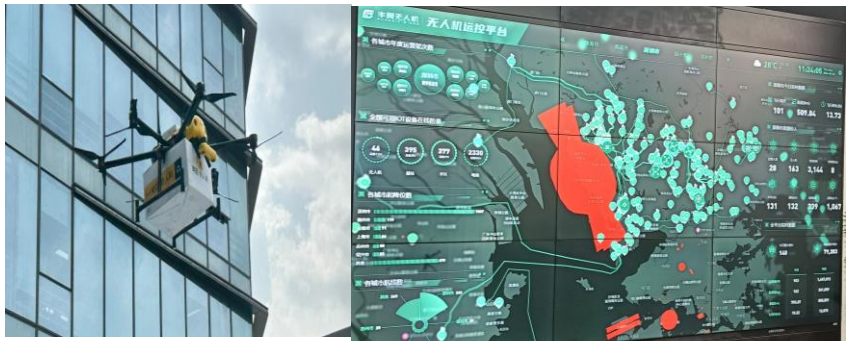
（日本技術者談：中国の技術者には禁じ手がない。時にBreakthruに）



キャッシュレス社会・配達（快悌）自動運転



深圳のドローン配達実証



深圳中心の無人ドローン
プラットフォーム構築



シェアサイクルも大量の廃棄自転車の報道あったが、
しっかり定着。
山の多いところは電動を活用。



シェアサイクルの偏りは
力技で解決！



2025世界ロボット大会（8/8-12）
世界人型ロボット運動会（8/14-17）



黙々と走るハーフ
マラソン優勝ロボット

（出所）筆者撮影

III7　中国EU商会・米国商会の報告書

- 昨年1月、中国EU商会は**「サイロ化と多様化、1つの世界、2つのシステム」**を発表。
  中国の「自立自強」政策や内外の規制リスクに対応したEU企業の中国市場におけるサプライチェーン、人材、データ・ITシステム、研究開発（R＆D）・標準におけるサイロ化について分析。
  - **首都・支社の調整コストとコンプラリスクが増大し、事業非効率化➡中国は「自立自強」から脱却すべきと提言**
- 昨年4月、中国EU商会は**「中国製造2025」テクノロジーリーダーシップのコスト」**を発表。
  「**中国製造2025**」により中国の先端分野の製造技術は急発展、製造大国化、**EUをもはや凌駕。**
  - 中国の目標**達成後**、多くの欧州企業は**中国市場へのアクセス喪失、市場撤退に**
  - 「中国製造2025」の一部は未達だが、**政策継続は非効率・貿易摩擦の大きなリスク**と指摘。
- 本年4月、中国EU商会は**「輸出管理（中国の新しい戦略的ツール）」**を発表。
  - 中国の各分野の目標**達成後**、多くの欧州企業は**中国市場へのアクセス喪失、市場撤退に**
  - 「中国製造2025」の一部は未達だが、**政策継続は非効率・貿易摩擦の大きなリスク**と指摘。
- 本年5月、米国商会はRhodium Groupに委託して「**中国の次世代産業政策**」の報告書を発表。
  - 「**China Shock 2.0**」中国シェア50％超の製品は192（2021）⇒315（2024）に。
  - **中国政府はSupplychainへのコントロール拡大を積極化。その際、多様な政策を駆使。競争者排除のための価格抑制、原料や技術へのアクセス制限（輸出管理等）**、他国の多様化努力への牽制、在外中国企業への影響行使（海外展開制限）、技術規制・技術者の海外渡航規制など。
  - 自動車、機械、化学分野の競争力喪失＋中国SCへの依存リスク（中国政策への警戒喚起）

    ⇒政策対応の必要性

（出所）ジェトロビジネス短信及び下記レポートに基づき筆者作成
2025年01月17日　中国EU商会が報告書を発表、中国事業の「サイロ化」に懸念を表明
2025年04月23日　中国EU商会、「中国製造2025」に関する報告書を発表、中国政府に対し、外部影響を考慮した持続的なアプローチを提言
EU Chamber of Commerce in China　Exporting Control: China's New Strategic Toolkit
Rhodium Group報告書　China’s Next-Generation Industrial Policy – Rhodium Group

Ⅳ　まとめ・お伝えしたいこと

- 中国は**不動産市場の低迷**、**民間投資の不振**、**消費意欲の低迷**、**人口減少**など、構造的な**経済**・社会課題などもあるが、**中国企業の技術力**は確実に強化、EV、自動運転、電子決済、再エネ、ドローン低空経済、AI、ヒト型ロボットなど**新技術実証・導入も急速に進展。**
- 経済安定化に向けて、「以旧換新」政策や、外資誘致の強化、投資環境の改善、超長期特別国債の発行に取り組み、2024年には5%の成長（政府発表）。
- 中国と各国との力関係（自信）・国際情勢は変化　（中米、中国と各国の関係）⇒日本も要順応
- 低成長、人口減少、過剰生産・過当競争（内巻）等いろいろな指摘はあるが、
  →低成長でも大市場であり、ニッチ市場でも大きい（**市場**として重要）
  →インフラ状況・サプライチェーンの厚みは比類なく、（**生産**としての適地）
  →中国企業のプレゼンスが高い産業あり（**顧客、供給元、提携先**として重要）
  中国が重要な**ビジネス展開国の一つ**であることに変わりない。
- 多くの日本企業は、中国内外のビジネス環境や中国の政策の変化等を見つつ、**事業ポートフォリオやサプライチェーンを調整**し、**中国での生き残りに尽力**。
  （例：日系企業向け　→地場企業向けビジネス・現地化推進、出海する中国企業向けビジネス等）
- **日中関係**は、明るい兆しから暗雲に　➡　改善模索の動き⇒（APECを機に改善OR長期化の岐路？）
- 中国ビジネス展開に当たり、幅広い情報収集、当局とのパイプ作り、経済安保への留意、**本国と現地の認識のすり合わせ**、**現地で見て感じる**ことが重要。